



ファンディング最前線

VOL. 17

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

地域・企業・行政と一体となって 進めた神奈川フィルの挑戦の軌跡

1970年に発足した神奈川県唯一のプロ・オーケストラである神奈川フィルハーモニー管弦楽団（以下、神奈川フィル）。「地域に密着した音楽文化創造」を理念に掲げ、神奈川県内を中心に地域に根ざした演奏活動を続けている。

しかし、40年以上の歴史ある楽団の経営は苦しく、3億円以上の債務超過を抱えていた。

2008年の公益法人改革に伴い、税制優遇が受けられる「公益財団法人」への移行を目指し、2011年に「ブルーダル基金」を設置した。その目標金額は5億円。

無謀とも思われたその目標だった

が、あと一步のところまで来た。専務理事の大石さんにその歩みをお伺いした。



神奈川フィル情報紙「Prelude」

私がこの楽団に着任した2006年、神奈川フィルは30年以上に亘り債務超過を抱えており、会社であれば倒産している状況でした。しかし、神奈川県内の文化財である神奈川フィルは、地元で生まれ地域に密着し、多くの人々に生きる力と感動を届けている楽団です。身近に音楽芸術文化がある環境は未来を明るく築いていくものです。そのような価値のある楽団をなくすわけにはいかないとの思いから今の役職を引き受けました。

ただ、着任したものの、事務局長が3年間不在などもあり、組織が体をなしていない状態でした。加え

て、2年目の2008年には公益法人制度が改正され、新たに「公益財団法人」への移行をめざすことになりました。移行するためには、2013年11月までに3億円の債務超過を解消し、300万円の純資産を確保することが不可欠です。どうやってそれを実現させるか、多くの課題が山積する楽団の「経営改革」ともに公益認定への道のりは様々な苦悩が重なり、今でも、本心に厳しい日々の連続です。

神奈川県と横浜市をはじめとする県内市町村は個人からの寄付と同程度の額を拠出する「マッチング方

式」を表明した。

楽団として、行政の協力を得るために、2010年に署名活動を行いました。楽団の存続を呼び掛け12万人の方々に署名のご協力をいただいた結果、県を動かし今回のマッチングが実現したのです。

そして、2011年、松沢前神奈川県知事を団長に「がんばれ！神奈川県 応援団」が発足。林文字横浜市長も副団長になってくださり、企業・法人や多くの個人の皆様が応援してくださいました。また市長会の会長である内野優海老名市長もマッチングをはじめ募金活動へ尽力してくださいました。



横浜ランドマークプラザでの「ブルーダル基金コンサート」



海老名市役所での「えびな小さな音楽会」



県庁大会議場「ブルーダル基金コンサート」

神奈川県は政令指定都市が3市ありますが、まだまだまだ自然あふれる地域もたくさんある豊かなところ。県内に33ある各市町村長さんと会い、神奈川フィルの状況を説明し、協力をお願いをしました。その結果、今まで行ったことのない場所でも小編成でコンサートをを行い、普段は150回前後の演奏会を2012年度は280回実施しました。また数千人の聴衆を集めて、フル編成による無料のプロムナードコンサートを、企業支援により横浜ランドマークプラザ等で実現。さらに、ロータリークラブと協力してチケット代の9割が寄付されるコンサートも開催できました。様々なご協力と

ご支援を得て、ブルーダル基金コンサートだけで53回も開催することができ、多くの方々のご支援に感謝の言葉もありません。

このような県内各地で生の神奈川フィルの演奏を聴く機会が増えたことよって、ファンの裾野が広がり、自主演奏会に来てくださる方が増え、特に定期会員は2006年から150%も増加しました。地域に密着した演奏活動により、皆様に喜ばれて一層寄付が進んだのではないかと思います。

「ブルーダル基金」発足直後、東日本大震災発生。危機的状況はさらに悪化した。

ブルーダル基金は2011年2月にスタートいたしました。スタート直後、東日本大震災が発生しました。自分達の募金活動は後にして未曾有の被害に私たちも仙台フィルのメンバーと一緒にチャリティコンサートを開催し、400万円以上を被災地に届けました。

そして、6月頃から「ブルーダル基金」へのご協力をお願いに集中す

ることになりました。新公益法人へ移行できましたら、今度は、被災地を音楽で癒す活動を実施していこうと考えています。

オール神奈川で挑んだ「ブルーダル基金」。ファンディングを行う中で、本当の「神奈川フィルファン」が増え、目標金額の5億円まであと一步のところまで来た。

個人からの寄付も1億円を超え、行政からのマッチングを合わせ約4億5千万円のご寄付を寄せていただきました（2013年8月21日現在）。初めの頃は、5億が気の遠くなる数字でしたが、今は奇跡が起きたという実感です。ブルーダル基金コンサートでは、黒岩県知事や林横浜市長も先頭に立って募金箱を持ち支援を呼び掛けてくださいました。一晩で170万円余りを募金していただいたコンサートもあります。また、コンサート会場などの募金受付に加え、銀行や郵便局の口座振り込み、オンライン寄付を受け付けたことなどで、県内外の個人寄付も増えていったのではないかと思います。



横浜 DeNA ベ이스スターズとのコラボレーション



横浜 F・マリノスとのコラボレーション



本物の舞台芸術体験事業

また、神奈川県内の多くの企業も支援していただきました。例えば、企業活動とタイアップした支援として、横浜生まれのキンビールも1ケースにつき1円を寄付することで総額239万円を寄付してくださっています。神奈川県トヨタ自動車や日産自動車も「ブルーダル基金」支援のため、新車発表会やショールームなどで、演奏をする機会を設けてくださり、事業支援とともにブルーダル基金への寄付を呼びかけてくださいました。

横浜 F・マリノスや横浜 DeNA ベ이스スターズなど地域に根ざしたプロスポーツの支援や川崎競馬場ともコラボレーションし、募金活動なども

積極的に行ってくださいました。横浜 F・マリノスでは、サポーターの方が SNS を使ってブルーダル基金への協力も呼び掛けてくださいました。また、新聞やテレビでも情報 PR して頂き、理解が広まりました。さらに、地元の各社公共交通機関などでは車内で寄付告知のポスターの掲示協力をしてくださったりと、オール 神奈川の力が結束した結果、今回の危機的状況をなんとか乗り越えられそうな目途がたつてきたことに、心から感謝をしています。

私たちからの発信だけではなく、個人・法人の多くのネットワークと多くの神奈川フィルファンからの支援発信があったからこそ、さらなる

広がりを持たせることができたのではないかと思っています。

未来を担う子どもたちのために、「感動の種まき」を。

神奈川フィルは、「国づくりは人づくり」をめざして未来の日本を担う子どもたちのために「子どもたちの音楽芸術体験事業」を通じ、「感動の種まき」を使命に活動を続けています。音楽の力は目に見えるものではありませんが、本物の芸術との出逢いは大人も子どもも心に感動を伝え、心を動かし「心動」となり、それが自立した行動につながっていくと信じています。これからも子どもたちが豊かな感性や創造力、人間性を心に育んでいけるよう、根気強く「種まき」活動を続けていきたいと思っています。また、文化芸術の持つ力と国策としても文化政策・芸術教育の必要性を訴えていきたいと思っています。

(聞き手・日本ファンドレイジング協会 三島理恵)



Profile

大石 修治 (おおいし しゅうじ)

ヤマハ株式会社広報部、仙台支店長、名古屋支店長を経てヤマハ横浜社長を務め、大人の音楽文化向上や新しい音楽普及イベントをプロデュースする。

2006年神奈川フィルハーモニー管弦楽団 常任理事兼事務局長就任。2009年専務理事就任。年間約280回(2012年度実績)の演奏会を開催し、オーケストラが文化芸術の公共財産として生きる力に繋がることを使命に、地域に密着した音楽普及活動を展開中。横浜国立大学講師(アートマネジメント)など。

Profile

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

1970年3月に発足し、1978年7月に財団法人、1985年6月に特定公益増進法人に認可された。

神奈川県音楽文化創造をミッションとして、神奈川県全域を舞台に多彩な活動を続けている。

現在は、ブルーダル基金を設置し、「公益財団法人」への移行を目指している。

<http://www.kanaphil.or.jp/>

ブルーダル基金

<http://www.kanaphil.or.jp/Bluedal/bluedal.php>